

都染直也教授 略歴

学 歴

昭和56年3月 学習院大学文学部国文学科 卒業
 昭和58年3月 東京外国語大学大学院外国語学研究科日本語学専攻修士課程 修了
 昭和60年3月 大阪大学大学院文学研究科日本学専攻社会言語学講座博士後期課程 退学

甲南学園における主な経歴

平成2年4月1日～平成5年3月31日 甲南大学講師
 平成5年4月1日～平成13年3月31日 同 助教授
 平成13年4月1日～現在 同 教授

主な役職等

平成13年4月1日～平成14年3月31日 甲南大学文学部日本語日本文学科主任
 平成14年4月1日～平成18年3月31日 甲南大学学長補佐
 平成17年10月1日～平成22年3月31日 甲南大学教職教育センター所長
 平成18年6月1日～平成22年5月31日 評議員（1号）
 平成21年4月1日～平成22年3月31日 甲南大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻主任
 平成23年4月1日～平成24年3月31日 甲南大学文学部日本語日本文学科主任
 平成24年4月1日～平成26年3月31日 甲南大学教務部長
 平成31年4月1日～令和3年1月31日 甲南大学大学院人文科学研究科長
 令和3年4月1日～現在 甲南大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻主任

主な委員・会議等

カウンセリングセンター運営協議会	人権問題委員会
学園環境企画委員会	人文科学研究科委員会
教育職員養成課程カリキュラム委員会	スポーツ・健康教育アドバイザー・コミッティ委員
教職課程カリキュラム小委員会	セミナーハウス管理運営委員会
教職教育センター運営委員会	大学院委員会
研究倫理委員会	大学会議
言語教育アドバイザー・コミッティ委員	長期計画推進委員会
広域副専攻センター協議会	入試制度検討委員会
合同教授会	人間科学研究所運営委員会
甲南学園100年史編纂委員会	人間科学研究所協議会
甲南学園80年史編集委員会	人間科学研究所設置検討委員会
甲南大学学費検討プロジェクトチーム委員会	ネットワーク委員会
甲南大学内部質保証委員会	ハイテク・リサーチ・センター協議会
公認心理師養成センター運営委員会	ハイテク・リサーチ・センター検討委員会
国際言語文化センター専門委員	発明委員会
国際交流センター協議会	平生記念栄誉奨学生選考小委員会
サイバーライブラリ協議会	ビジネス・イノベーション研究所協議会

自己点検・評価運営委員会
自己点検評価・図書館関係実施委員会
自動車問題委員会
障がい学生支援小委員会
情報教育研究センター協議会
新12号館建設委員会

フロンティア研究推進機構協議会
法科大学院（ロースクール）設置委員会
補導協議委員会
マルチメディア教育に関する委員会
リジョナル栄誉奨学生選考小委員会

以 上

都染直也教授 業績一覧

1.1. 著書

1. 1989年3月『兵庫県の方言 兵庫県方言収集緊急調査報告書（兵庫県民俗調査報告12）』, 共著, 兵庫県教育委員会
2. 1992年3月『甲南大学キャンパスことば辞典』, 共編著, 甲南大学文学部都染研究室
3. 2002年3月『日本のふるさとことば集成 第13巻 大阪・兵庫』, 共著, 国立国語研究所
4. 2003年11月『近畿の方言 調べてみよう暮らしのことば』, 共著, ゆまに書房
5. 2006年2月『社会言語学の展望』, 共著, くろしお出版
6. 2006年12月『ことばのとびら』, 単著, 神戸新聞総合出版センター
7. 2007年1月『日本のふるさとことば集成 第14巻 鳥取・島根・岡山』, 共著, 国立国語研究所
8. 2012年3月『的形ことば事典 第一版』共編著, 姫路市立的形公民館
9. 2018年3月『関西弁事典』, 共編著, ひつじ書房
10. 2022年3月『甲南大学キャンパスことば辞典1992・2009・2022 -パンキョー・コーイキ・キソキョーソー-』, 共編著, 甲南大学文学部都染研究室

1.2. 教科書・マルチメディア教材等

1. 1995年9月『概説日本語学』, 共著, 「第2章 音声・音韻」担当, 明治書院
2. 2002年3月『CALL 副教材シリーズ 日本語韻律Ⅱ アクセントの多様性と変遷』(CD-ROM), 共編著, 文部科学省大学共同利用機関メディア教育開発センター
- 2-2. 2002年3月『CALL 副教材シリーズ 日本語韻律Ⅱ 方言アクセント音声データベース』(CD-ROM), 共編著, 文部科学省大学共同利用機関メディア教育開発センター
3. 2007年3月『現代日本語学入門』, 共著, 「第2章 音声・音韻」担当, 明治書院
4. 2007年3月『概説日本語学 改訂版』, 共著, 「第2章 音声・音韻」担当, 明治書院
5. 2008年3月『現代日本語学入門 改訂版』, 共著, 「第2章 音声・音韻」担当, 明治書院

1.3. 科学研究費等報告書

1. 1985年2月『東京語アクセント資料 上・下巻』, 共編著(研究協力者), 文部省科学研究非特定研究「言語の標準化」総括班資料集
2. 1989年3月『兵庫県中播地方言アクセント資料』, 単著, 1988年度科学研究費奨励研究(A)報告書
3. 1993年3月『各地無型アクセント方言の韻律的特徴と教育(カセットテープ2本付)』, 共著, 文部省重点領域研究「日本語音声」E2班1992年度研究成果報告書
4. 1993年3月『大阪-岡山間アクセントグロットグラム』, 共著, 文部省重点領域研究「日本語音声」A3班1992年度研究成果刊行書
5. 1994年3月『兵庫県家島町坊勢方言若年層のアクセント資料-1~6拍体言 2~5拍用言の音声学的記述-』, 単著, 1993年度科学研究費奨励研究(A)報告書
6. 1999年3月『数理解析的手法による漢字からひらがなへの字形の変化の研究』, 共著, 甲南大学総合研究所叢書52
7. 2003年3月『若者ことばの発生・伝播・浸透に関する社会言語学的調査研究』, 共著, 甲南大学総合研究所叢書73
8. 2013年3月『兵庫県中播地方言アクセント資料 改訂版』, 単著, 1988年度科学研究費奨励研究(A)報告書
9. 2014年2月『小・中学生向け「地域語教材」開発のための基礎的研究』, 共編著, 甲南大学総合研究所叢書122

1.4. 甲南大学方言研究会報告書

1. 1991年3月『兵庫県多紀郡水上郡接境地域言語地図』, 編著, 甲南大学方言研究会報告1
2. 1992年3月『兵庫県多紀郡言語地図』, 編著, 甲南大学方言研究会報告2
3. 1993年3月『兵庫県水上郡言語地図』, 編著, 甲南大学方言研究会報告3
4. 1994年3月『兵庫県北播磨地方(西脇市・多可郡)言語地図』, 編著, 甲南大学方言研究会報告4
5. 1996年3月『兵庫県加東郡言語地図』, 編著, 甲南大学方言研究会報告6
6. 1997年3月『兵庫県旧美囊郡言語地図(三木市・美囊郡吉川町・神戸市北区淡河町)』, 編著, 甲南大学方言研究会報告7
7. 1998年3月『兵庫県小野市新言語地図』, 編著, 甲南大学方言研究会報告8
8. 1999年3月『兵庫県加西市言語地図』, 編著, 甲南大学方言研究会報告5
9. 1999年3月『兵庫県三田市言語地図』, 編著, 甲南大学方言研究会報告9
10. 2000年3月『兵庫県朝来郡神崎郡接境地域言語地図』, 編著, 甲南大学方言研究会報告10
11. 2001年3月『兵庫県神崎郡南部言語地図』, 編著, 甲南大学方言研究会報告11
12. 2002年3月『兵庫県飾磨郡宍粟郡姫路市接境地域言語地図』, 編著, 甲南大学方言研究会報告12
13. 2003年3月『JR山陰本線 鳥取-和田山間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告13
14. 2004年3月『JR山陰本線 松江-鳥取間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告14
15. 2005年3月『JR山陽本線 姫路-倉敷間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告15
16. 2006年3月『JR播但線・山陰本線 姫路-福知山間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告16
17. 2007年3月『JR山陽本線・赤穂線 姫路-福山間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告17
18. 2008年3月『JR山陰本線 石見福光-松江-伯耆大山間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告18
19. 2009年3月『JR山陽本線・智頭急行線・JR因美線 姫路-鳥取間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告19
20. 2010年3月『JR山陰本線 京都-和田山間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告20
21. 2011年3月『JR山陽本線 広島-岡山間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告21
22. 2012年3月『JR山陽本線・加古川線・福知山線 姫路-福知山間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告22
23. 2013年3月『JR姫新線 姫路-新見間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告23
24. 2014年3月『JR山陰本線・伯備線・山陽本線 松江-岡山間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告24
25. 2015年3月『KTR宮津線, JR舞鶴線・山陰本線 豊岡-西舞鶴-福知山間 グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告25
26. 2016年3月『JR小浜線・舞鶴線 敦賀-綾部間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告26
27. 2017年3月『JR山陰本線 出雲市-飯浦間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告27
28. 2018年3月『JR福知山線 福知山-尼崎間グロットグラム集』, 編著, 甲南大学方言研究会報告28
29. 2019年3月『兵庫県各地域言語地図拾遺集Ⅰ』, 編著, 甲南大学方言研究会報告29
30. 2019年10月『兵庫県各地域言語地図拾遺集Ⅱ』, 編著, 甲南大学方言研究会報告30
31. 2019年10月『甲南大学方言研究会の軌跡 -1990~2019 30年の記録と思い出-』, 編著, 甲南大学方言研究会報告別冊

1.5. 甲南大学方言研究会叢書

1. 1994年3月『兵庫県小野市言語地図』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書1
2. 1997年3月『JR福知山線沿線グロットグラム』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書3
3. 1998年1月『兵庫県加古川市言語地図』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書2
4. 1998年3月『JR神戸線沿線(神戸-姫路間)グロットグラム』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書4

5. 1998年3月『JR神戸線沿線（大阪－姫路間）アクセントグロットグラム』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書5
6. 1998年3月『JR加古川線沿線グロットグラム』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書6
7. 2000年3月『兵庫県姫路市言語地図』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書7
8. 2002年2月『兵庫県下グロットグラム集Ⅰ JR沿線篇1』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書8
9. 2002年1月『兵庫県川西市・川辺郡猪名川町言語地図』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書9
10. 2008年3月『兵庫県高砂市言語地図』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書10
11. 2008年3月『静岡県庵原郡（富士川町・由比町・蒲原町）言語地図』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書11
12. 2009年2月『兵庫県加古郡稲美町言語地図』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書12
13. 2010年3月『兵庫県姫路市新市域言語地図集』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書13
14. 2010年3月『兵庫県姫路市家島町のことば（1）－語彙・文法・アクセントの地域差・年代差－』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書14
15. 2011年3月『兵庫県姫路市家島町のことば（2）－暮らしのことばの地域差・年代差－』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書15
16. 2012年3月『兵庫県丹波地方言語地図』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書16
17. 2019年3月『兵庫県加東市言語地図』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書17
18. 2020年3月『丹波篠山市大芋地区のことば』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書18
19. 2020年4月『近鉄大阪線名古屋線 赤目口－千里間グロットグラム』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書19
20. 2020年5月『姫路市家島町坊勢方言談話資料－1940年代生まれ女性の自然談話－』, 共編著, 甲南大学方言研究会叢書20

2. 論文

1. 1983年12月「合成音声によるアクセント研究－埼玉県東南部付近におけるアクセントの発話型と知覚型の比較－」, 単著, 『待兼山論叢（日本学篇）』17号, 大阪大学文学会, 21-42
2. 1985年3月「方言地図を読む－「糸魚川言語地図」をもとに－」, 単著, 『兵庫県立太子高等学校研究紀要』4, 61-69
3. 1985年9月「兵庫県家島町方言のアクセント（1）」, 単著, 『學苑』549（昭和女子大学近代文化研究所）, 55-42
- 3-2. 1986年1月「兵庫県家島町方言のアクセント（2）－坊勢方言における「金田一語彙」－」, 単著, 『學苑』553, 165-157
4. 1986年9月「姫路市的形町方言アクセントの所属語彙（1）－体言篇その1（1・2拍名詞）－」, 単著, 『學苑』561, 75-69
- 4-2. 1986年11月「姫路市的形町方言アクセントの所属語彙（2）－体言篇その2（3拍名詞）－」, 単著, 『學苑』563, 87-78
- 4-3. 1987年1月「姫路市的形町方言アクセントの所属語彙（3）－用言篇その1（1～5拍の動詞・形容詞）－」, 単著, 『學苑』565, 87-78
5. 1987年11月「姫路市的形町方言のアクセント－老年層の3拍体言とその世代差について－」, 単著, 『學苑』575, 69-60
6. 1987年12月「アクセント型所属語彙の世代差について－姫路市的形町における1・2拍体言－」, 単著, 『昭和女子大学国語国文学研究』創刊号, 34-25
7. 1988年1月「兵庫県加西市都染町方言のアクセント－1～3拍体言の金田一語彙・その他－」, 単著, 『學苑』577, 198-190
- 5-2. 1988年2月「姫路市的形町方言のアクセント（2）－老年層の動詞・形容詞－」, 単著, 『學苑』578, 96-87
- 5-3. 1988年8月「姫路市的形町方言のアクセント（3）－若年層の1・2拍体言－」, 単著, 『學苑』584, 84-

78

- 5-4. 1989年1月「姫路市的形町方言のアクセント（4）－若年層の3拍体言，老年層との比較－」，単著，『學苑』590，142-143
8. 1989年12月「姫路市周辺における二拍体言アクセントの変化について」，単著，『日本研究－言語と伝承（大野晋先生古稀記念論文集）』，角川書店，351-366
9. 1989年12月「姫路市的形町方言における三拍体言アクセントの変化について」，単著，『吉澤典男教授追悼論文集』，東京外語大音声学研究室，218-228
10. 1990年2月「松江市大井町方言のアクセント資料」，単著，『學苑』603，71-63
11. 1990年3月「8.1 宮津市のアクセント」，単著，『場面と場面意識（国立国語研究所報告102）』国立国語研究所，219-251
12. 1990年12月「青森市高校生の方言使用の一側面」，共著，『方言誌あおもりけん』8，1-12
13. 1991年2月「第4章 言語接触と方言」，単著，『新・方言学を学ぶ人のために』，世界思想社，68-91
14. 1991年3月「姫路市的形町方言4拍体言のアクセント」，単著，『甲南大學紀要 文学編』80，1-52
15. 1991年3月「島根県美保関町におけるアクセントの分布」，単著，『方言音調の諸相-西日本（2）』，文部省重点領域研究「日本語声における韻律的特徴の実態とその教育に関する総合的研究」A3 班平成2年度研究成果刊行書，29-38
16. 1993年3月「兵庫県家島町坊勢方言若年層のアクセント（1）－体言篇1 金田一語彙・その他の語彙の音声学的記述－」，単著，『甲南大學紀要 文学編』88，37-78
17. 1993年3月「平成四年国語国文学会の展望（Ⅱ）国語学近代・現代（方言）」，単著，『文学・語学』（全国大学国語国文学会）140，46-47
18. 1993年9月「生の方言／脚色された方言」，単著，『言語』vol. 22-9，大修館書店，68-75
- 16-2. 1994年3月「兵庫県家島町坊勢方言若年層のアクセント（2）－用言篇その1 金田一語彙・その他の語彙の音声学的記述－」，単著，『甲南大學紀要 文学編』91，39-72
19. 1994年12月「大学生のローマ字使用能力について」，単著，『ことばの世界』北海道方言研究会，425-430
20. 1995年1月「方言と共通語は共存し続ける」，単著，『言語』vol. 24-1 大修館書店，44-51
- 5-5. 1995年3月「姫路市的形町方言のアクセント（5）－昭和一桁生まれの1～3拍体言－」，単著，『甲南大學紀要 文学編』95，34-64
- 5-6. 1996年3月「姫路市的形町方言のアクセント（6）－昭和一桁生まれの4～6拍体言－」，単著，『甲南大學紀要 文学編』99，23-71
21. 1996年5月「老若の言語学」，単著，『言語』vol. 25-5，大修館書店，80-83
- 5-7. 1997年3月「姫路市的形町方言のアクセント（7）－昭和一桁生まれの2～5拍用言－」，単著，『甲南大學紀要 文学編』103，1-31
22. 1997年3月「島根県八雲村方言若年層のアクセント」，単著，『西日本におけるネオ方言の実態に関する調査研究』，平成8年度科学研究費補助金（基盤研究（A）（1））研究成果報告書，62-71
23. 1997年7月「漢字からひらがなへの字形の変化の数理解析Ⅰ－字形の歴史的変遷－」，共著，『甲南大學紀要 理学編』44（1），77-90
- 23-2. 1997年7月「漢字からひらがなへの字形の変化の数理解析Ⅱ－数理解析と結果－」，共著，『甲南大學紀要 理学編』44（1），91-111
24. 1998年3月「加古川市西神吉町方言のアクセント（1）－1970年代生まれの3拍体言-低起式の動態－」，単著，『甲南大學紀要 文学編』107，1-26
- 24-2. 1999年3月「加古川市西神吉町方言のアクセント（2）－1970年代生まれの1・2拍体言－」，単著，『甲南大學紀要 文学編』111，1-14
25. 1999年5月「キャンパスのあいさつことば」，単著，『國文学』第44巻6号，學燈社，104-110
26. 1999年12月「方言の近未来を予測する－兵庫県南東部方言のグロットグラムから－」，単著，『言語』vol. 28-12，大修館書店，66-73

27. 2000年3月「兵庫県三田市方言の諸相—分布・動態・区画論再考」, 単著, 『甲南大學紀要 文学編』115, 1-17
28. 2000年6月「「カツゼツ」小考」, 単著, 『20世紀フィールド言語学の軌跡 (徳川宗賢先生追悼論文集)』変異理論研究会, 181-189
29. 2001年3月「JR神戸線(姫路—大阪)沿線における方言の動態について」, 単著, 『甲南大學紀要 文学編』123, 1-16
30. 2001年3月「人文科学系におけるマルチメディア教育の可能性と課題—日本語学・日本文学研究の場合—」, 単著, 『甲南大学平生太郎基金科学研究報告書』第3巻(1998~1999年度)学校法人甲南学園, 649-657
31. 2001年3月「『兵庫県方言辞典』作成のための基礎的研究」, 単著, 『甲南大学平生太郎基金科学研究報告書』第3巻(1998~1999年度), 学校法人甲南学園, 671-717
32. 2003年3月「兵庫県の垂井式アクセント・低進式アクセントについて」, 単著, 『甲南大學紀要 文学編』128, 1-17
33. 2003年8月「研究史への視点」, 単著, 『方言研究者宮治弘明の目指したもの』変異理論研究会編, 23-32
34. 2004年1月「山陰地方における方言の分布と動態について—JR山陰本線松江—和田山間グロットグラムをもとに—」, 単著, 『日本海域の地域特性とことば』桂書房, 193-205
35. 2004年4月「大阪-姫路-鳥取(-松江)における方言の分布と動態—JR沿線グロットグラム調査から—」, 共著, 『甲南大學紀要 文学編』133, 1・21-28
36. 2004年11月「播州地方の秋祭りのことば」, 単著, 『日本語学』vol. 23-14, 明治書院, 56-65
37. 2005年3月「山陰地方における新しい方言形「~(ダ)ヘン」「~ガン」「~ダンカ」について—JR山陰本線松江—和田山間グロットグラムをもとに—」, 単著, 『甲南大學紀要 文学編』138, 1-20
38. 2005年5月「グロットグラムによる方言動態の研究」, 単著, 『兵庫教育』651 (vol. 57-2), 兵庫県教育委員会, 52-54
39. 2006年1月「キャンパスことばと方言—甲南大学(神戸市東灘区)を例として—」, 単著, 『日本語学』vol. 25-1, 明治書院, 32-40
40. 2006年5月「山陰・山陽から関西における方言の分布と動態について—JR山陰本線・山陽本線・神戸線グロットグラムをもとに—」, 単著, 『日本のフィールド言語学』桂書房, 108-121
41. 2007年3月「グロットグラム作成のための方言調査法—甲南大学での実践例をもとに—」, 単著, 『甲南大學紀要 文学編』148, 1-36
42. 2007年3月「第7章第1節 方言」, 共著, 『加西市史第6巻 民俗篇』, 加西市史編纂委員会, 537-574
43. 2007年9月「播磨北・西部の「来ない」について」, 単著, 『日本語学』vol. 26-11, 明治書院, 186-187
44. 2008年9月「雲伯方言地域における特徴的な方言形式について—JR山陰本線グロットグラムに見る「ダヘン」「ガン」「コラン」「ダニカン・タニカン」—」, 単著, 『方言研究の前衛山口幸洋博士古希記念論文集』桂書房, 412-424
45. 2010年2月「第13章第6節 方言」, 単著, 『上郡町史第2巻 本文編Ⅱ』, 上郡町史編纂委員会, 901-917
46. 2010年3月「グロットグラムによる方言研究」, 単著, 『甲南大學紀要 文学編』160, 15-27
47. 2011年3月「国語辞典の意味記述の社会言語学的考察(1)—手話・公用語—」, 単著, 『甲南大學紀要 文学編』161, 15-22
48. 2011年3月「ことばの分布地域の意外性について—播州方言と周辺方言, 家島町方言の命令表現「~マ」, 四拍副詞「がっつり」—」, 共著, 『甲南大學紀要 文学編』161, 23-36
49. 2012年3月「新・日本語学者列伝 徳川宗賢」, 単著, 『日本語学』vol. 31-3, 明治書院, 92-100
50. 2012年11月「日本語の攻防(言語変種)グロットグラムでみる方言の動態」, 単著, 『日本語学』vol. 31-13, 明治書院, 66-75
51. 2012年11月「近畿~中国での方言動態をとらえる」, 単著, 『日本語学』vol. 31-14, 明治書院, 97
52. 2014年10月「雨の擬態語「ピリピリ」の分布と動態について—近畿西部~中国東部のグロットグラム調査をもとに—」, 単著, 『北海道方言研究会40周年記念論文集 生活語の世界(北海道方言研究会叢

- 書 第6巻)』北海道方言研究会, 100-107
53. 2015年3月「グロットグラムにみる「斜めの等語線」について」, 単著, 『日本語史の研究と資料』(中山緑朗編), 明治書院, 230-245
 54. 2017年3月「広域グロットグラムによる方言の動態・動向研究」, 単著, 『甲南学園平生記念 人文・社会科学研究報告書』第4巻(2014~2015年度), 学校法人甲南学園, 158-183
 55. 2017年9月「広域グロットグラムの試み—近畿・北陸西部~中国中・東部の調査資料をもとに—」, 単著, 『方言の研究』3, 日本方言研究会, 129~154
 56. 2019年8月「方言学のゼミナール —甲南大学方言研究会の実践報告—」, 単著, 『日本語学』vol. 38-8, 明治書院, 24-33
 57. 2021年3月「日本語学における野外調査型演習の意義・成果・展望—甲南大学方言研究会30年間の活動から—」, 単著, 『甲南大學紀要 文学編』171, 29-43
 58. 2021年3月「神戸ことばの昔・今」, 単著, 『大学的神戸ガイド』甲南大学プレミアプロジェクト神戸ガイド編集委員会編, 昭和堂, 127-145

3.1. その他：研究ノート

1. 2012年12月「短信 京阪式アクセントの特徴的音調について」, 単著, 『音声研究』vol. 16-3, 日本音声学会, 92~93

3.2. その他：論文翻訳

1. 1979年4月「広東石湾古窯趾調査」, 共訳(共訳者:徳川義宣), 『金鯉叢書』6号, 徳川黎明会, 651-665
2. 1992年3月「中国語北京方言における「日本語サ行子音のゆれ」に類似する現象について —曹耘氏「北京話 t_c 組声母の前化現象」および胡明扬氏「北京話“女国音”調査(1987)」の邦訳—」, 単著, 『甲南大學紀要 文学編』84, 35-65

3.3. その他：翻刻・索引

1. 1999年4月『地域語資料4 上野勇著 ことばの調べ方』(翻刻), 単著, 『地域語資料』4, 近畿方言研究会, 1-62
2. 2001年3月『印南郡方言集(第1集)』—復刻と注釈—, 単著, 『甲南大學紀要 文学編』119, 45-94
3. 2006年3月「関西における方言研究小史—『近畿方言』・『近畿方言双書』と『兵庫方言』の索引—」, 単著, 『甲南大學紀要 文学編』143, 1-32

3.4. その他：講演文字化等

1. 1997年8月「インタビューひと・とき 若者ことばは一種のスラング いつの時代にだって言語変化はあるのです」, 『納税月報』第50巻第9(通巻597)号 62-63
2. 2002年4月「神戸と方言 —方言の分布と方言の変化—」, 単著, 『神戸親和女子大学生涯学習センター紀要』5号, 39-59
- 2-2. 2002年8月「神戸と方言 —方言の分布と方言の変化—」, 単著, 『ひとに学びひとに生かす:神戸親和女子大学 公開講座2』, 単著, ジュンク堂書店(1.の単行本化), 89-139
3. 2007年1月「暮らしのことばをとらえよう—西播南部・中播の方言調査をもとに—」, 単著, 『西播国語』37, 兵庫県高校教育研究会国語部会西播磨支部, 57-67
4. 2007年11月「現代播州弁事情」, 単著, 『播磨人気質を探る』, 播磨学研究所, 神戸新聞総合出版センター, 65-99
5. 2018年6月「ことばの分布と伝播を追って」, 単著, 『会報はまゆう』第67号, 三重県高等学校国語研究会研究紀要, 3-47

3.5. その他：書籍・辞典・事典項目執筆

1. 1983年10月『兵庫県大百科事典』, 神戸新聞社出版センター, 執筆項目「標準語と兵庫県方言」228-229
2. 1986年10月『旺文社国語辞典 改訂新版』, 旺文社, 執筆担当「同音異義語の使い分け」
3. 1986年10月『旺文社小学国語新辞典』, 旺文社, 執筆担当「増補項目・改訂項目」
4. 1988年5月『日本語百科大事典』大修館書店, 執筆項目「方言と共通語の葛藤史」924-935
5. 1992年5月『ひょうごの方言・俚言』, 神戸新聞総合出版センター, 執筆項目「姫路の方言」「山名邦男」
「標準語と兵庫県方言」
6. 2000年11月『日本国語大辞典 第二版』小学館, 語誌執筆項目「ありじごく」「あんだら」「カッティング」
「カット」「くも(蜘蛛)」
7. 2004年5月『日本語あれこれ事典』, 明治書院, 執筆項目「「おはよう」は朝だけなの?」・「ドラマなどで
「友情出演」とあるが, どういうことですか?」・「カリスマ美容師」「カリスマ店員」の「カリ
スマ」はおかしい?」・「さいたま市」など, なぜ最近平仮名表記の地名が多いの?」
8. 2005年10月『事典 日本の多言語社会』岩波書店, 執筆項目「専門語」272-274, 「術語」274-276
9. 2005年10月『新版日本語教育事典』大修館書店, 執筆項目「集団語」468-469
10. 2009年6月『みんなの日本語事典』, 共著, 明治書院, 執筆項目「気になる言葉(2)とか」4-5, 「超」な
どの強調語の盛衰」16-17, 「琉球方言と共通語」182-183, 「北海道の方言」187-188, 「地域の
新方言「東京の新方言」「北海道の新方言」「仙台の新方言」「名古屋の新方言」「大阪の新方言」
「兵庫の新方言」「広島の新方言」「鳥取の新方言」「島根の新方言」「福岡の新方言」」190-199,
「「新方言」とは何か」206-207, 「「ナニゲニ」「ヤッパ」は方言か誤りか」208-209, 「凄まじい
勢いで生み出される略語(=略語の種類)」352-353, 「過去の日本語の発音とアクセント」442-
443
11. 2011年10月『県別 罵詈雑言辞典』, 共著, 東京堂出版, 兵庫県に関する内容を担当
12. 2014年11月『日本語辞典 上・下』朝倉書店, 執筆項目:『近畿方言の総合的研究』545, 『方言と方言学』
1861-1862, 『日本方言学』1605, 『中国地方五県言語地図』1338-1339, 「廣戸惇」1715
13. 2015年10月『県別 方言感情表現辞典』, 共著, 東京堂出版, 兵庫県に関する内容を担当
14. 2018年8月『県別 方言感覚表現辞典』, 共著, 東京堂出版, 兵庫県に関する内容を担当
15. 2018年10月『日本語学大辞典』日本語学会編, 東京堂出版, 執筆項目:「グロットグラム」256-258, 「集団
語(定義, 現代の集団語, 文献)」494-495

3.6. その他：雑誌等項目執筆

1. 1984年5月「方言は仮名で表記できるか」, 単著, 『國文学』vol. 29-6, 学燈社, 122
2. 1984年5月「中国地方のことばと四国地方のことばは, 同じか」, 単著, 『國文学』vol. 29-6, 学燈社, 128
3. 1988年4月「東京方言について」, 単著, 『言語』vol. 17-4「談話室」, 大修館書店, viii-ix
4. 1990年6月『ことば読本 方言と共通語』, 河出書房新社, 執筆項目「方言は仮名で表記できるか」「中国地
方のことばと四国地方のことばは, 同じか」
5. 2000年1月「リレー連載 日本の方言探訪⑩ 姫路編」, 単著, 『言語』vol. 29-8, 大修館書店, 112
6. 2002年8月「標準語(三人三様・これが気になる!)」, 単著, 『Diatext』07, 京都芸術センター, 78-81, 123-
122
7. 2002年12月『日本語学』vol. 21-14, 明治書院, 単著(「「おはよう」は朝だけなの?」「ドラマなどで「友情
出演」とあるが, どういうことですか?」「「カリスマ美容師」「カリスマ店員」の「カリスマ」
はおかしい?」「「さいたま市」など, なぜ最近平仮名表記の地名が多いの?」)66, 127, 128, 152
8. 2003年1月「小事典ふるさとのことば 28-兵庫県-」, 単著, 『言語』vol. 32-1, 大修館書店, 84-85
9. 2007年3月「神戸では低年層のみにみられるコーヘンが上郡では高年層にも広く使われている原因」, 単著,
『かみごおり町史百話』, 上郡町, 309-312
10. 2007年3月「中国東部・播磨と中部日本に離れて分布するゴーガワク」, 単著, 『かみごおり町史百話』, 上

郡町, 313-316

11. 2014年11月「連載 列島縦断!日本全国イチオシ方言 兵庫県」, 単著, 『日本語学』vol. 33-13, 86-87

3.7. その他: 書評・新刊紹介

1. 1987年9月『標準語の成立事情』(真田信治著), 単著, 『言語』vol. 16-9, 大修館書店, 124
2. 1989年2月『方言に生きる古語』(加藤正信・佐藤武義・前田富祺著), 単著, 『言語』vol. 18-2, 大修館書店, 123
3. 1989年2月「大阪ことばのニュアンスを中国語で表現(『大阪ことばと中国語』彭飛著)」, 単著, 『東方』95, 東方書店, 18-20
4. 1990年2月『方言に憑かれた男 越谷吾山』(杉本つとむ著), 単著, 『言語』vol. 9-2, 大修館書店, 140
5. 1995年10月『関西方言の社会言語学』(徳川宗賢・真田信治編), 単著, 『言語』vol. 24-10, 大修館書店, 169
6. 2008年2月『地方別方言語源辞典』(真田信治・友定賢治編), 単著, 『言語』vol. 37-2, 大修館書店, 120

4. 学会・研究会発表等

1. 1982年5月21日「東京北部及びその周辺地域におけるアクセントの実態」, 単独発表, 日本方言研究会第34回研究発表会
2. 1984年9月22日「アクセント型の発話と知覚との関連-埼玉県東南部の場合-」, 単独発表, 第3回近畿音声言語研究会
3. 1986年5月23日「出雲東部のアクセントについて」, 共同発表, 日本方言研究会第42回研究発表会
4. 1988年10月2日「アクセント型所属語彙の世代差について-姫路市的形町方言の調査から-」, 単独発表, 昭和63年度日本音声学会全国大会
5. 1990年11月18日「青森市高校生の方言使用の一側面」, 共同発表, 変異理論研究会(第13回)
6. 1991年10月27日「文献紹介 胡明扬氏「北京話“女国音”調査(1987)」」, 単独発表, 変異理論研究会(第21回)
7. 1991年10月7日「無型アクセント地域における文型イントネーション」, 共同発表, 科学研究費重点領域研究「日本語音声」研究成果中間報告会
8. 1992年4月25日「熊本方言における文型イントネーションについて」, 共同発表, 第25回 音声言語研究会
9. 1994年7月30日「若者ことばの音声的特徴」, 単独発表, 第1回 若者ことばの会
10. 1994年11月19日「若者ことばは言葉の乱れか(発音にも「乱れ」はあるか)」, 単独発表, 第2回 若者ことばの会
11. 2002年2月16日「方言研究者・宮治弘明の目指したもの-研究史への視点-」, 単独発表, 変異理論研究会(第96回)
12. 2002年5月25日「JR神戸線沿線の若者の方言について」, 単独発表, 第17回 若者ことばの会
13. 2002年9月29日「『アクセントの多様性と変遷』・『方言アクセント音声データベース』-日本語音声の教材CD-ROMの開発-」, 共同発表, 平成14年度日本音声学会全国大会
14. 2002年11月10日「日本語音声の教材CD-ROM『アクセントの多様性と変遷』および『方言アクセント音声データベース』について(デモンストレーション発表)」, 共同発表, 平成14年度国語学会秋季大会
15. 2003年12月13日「若者ことばの会10年間の総括」, 単独発表, 第20回 若者ことばの会
16. 2010年7月25日「方言の分布と動態-兵庫県から中国地方東部-」, 単独発表, 変異理論研究会(第139回)
17. 2010年10月23日「ことばの変化と伝播(ワークショップ)」, 共同発表, 平成22年度日本語学会秋季大会
18. 2015年5月22日「企画展示「方言研究の歩み」紹介」, 単独発表, 日本方言研究会 第100回研究発表会
19. 2019年3月3日「近畿西部~中国東部の方言動態について-グロットグラム調査をもとに-(講演・ワークショップ)」, 単独・共同, 全国方言資料展からみる地方創生(主催・徳島大学ガレリア新蔵展示室運営委員会/後援・四国大学)

5.1. 科学研究費獲得状況（研究代表者）

1. 1988年度 奨励研究（A）「兵庫県中播地方におけるアクセント変化の動向に関する調査研究」
2. 1990年度 奨励研究（A）「兵庫県家島町における方言変化の社会言語学的調査研究」
3. 1991年度 奨励研究（A）「兵庫県丹波地方における方言変化の動態に関する社会言語学的調査研究」
4. 1992年度 奨励研究（A）「兵庫県における垂井式アクセントの動態に関する社会言語学的調査研究」
5. 1993年度 奨励研究（A）「兵庫県家島町方言アクセントの動態に関する社会言語学的調査研究」
6. 1994年度 奨励研究（A）「兵庫県中播地方におけるアクセント変化の動態に関する社会言語学的調査研究」
7. 1996年度 萌芽の研究「京阪式アクセント低起式音調の消失化に関する社会言語学的調査研究」
8. 1997年度 萌芽の研究（継続）「京阪式アクセント低起式音調の消失化に関する社会言語学的調査研究」
9. 1998年度 萌芽の研究「京阪式アクセント話者における潜在的共通語アクセント顕在化に関する社会言語学的研究」
10. 1999年度 萌芽の研究（継続）「京阪式アクセント話者における潜在的共通語アクセント顕在化に関する社会言語学的研究」
11. 2002年度 萌芽の研究「兵庫県における異体系アクセント接触地域におけるアクセントの動態に関する調査研究」
12. 2003年度 萌芽の研究（継続）「兵庫県における異体系アクセント接触地域におけるアクセントの動態に関する調査研究」
13. 2007年度 萌芽の研究「市町村合併による方言変化の動態に関する社会言語学的調査研究」
14. 2008年度 挑戦的萌芽研究（研究種目名称変更・継続）「市町村合併による方言変化の動態に関する社会言語学的調査研究」
15. 2009年度 挑戦的萌芽研究（研究種目名称変更・継続）「市町村合併による方言変化の動態に関する社会言語学的調査研究」
16. 2010年度 挑戦的萌芽研究「異体系アクセント接触地域の学校における生徒の言語変化に関する社会言語学的調査研究」
17. 2011年度 挑戦的萌芽研究（継続）「異体系アクセント接触地域の学校における生徒の言語変化に関する社会言語学的調査研究」
18. 2012年度 挑戦的萌芽研究（継続）「異体系アクセント接触地域の学校における生徒の言語変化に関する社会言語学的調査研究」

5.2. 科学研究費獲得状況（研究分担者）

1. 1990年度 重点領域研究「各地無型アクセント方言の韻律的特徴と教育」（代表：飯豊毅一）
2. 1991年度 重点領域研究（継続）「各地無型アクセント方言の韻律的特徴と教育」（代表：山田泉）
3. 1992年度 重点領域研究（継続）「各地無型アクセント方言の韻律的特徴と教育」（代表：山田泉）
4. 2011年度 基盤研究（A）「方言分布変化の詳細解明—変動実態の把握と理論の検証・構築—」（代表：大西拓一郎）
5. 2012年度 基盤研究（A）（継続）「方言分布変化の詳細解明—変動実態の把握と理論の検証・構築—」（代表：大西拓一郎）
6. 2013年度 基盤研究（A）（継続）「方言分布変化の詳細解明—変動実態の把握と理論の検証・構築—」（代表：大西拓一郎）
7. 2014年度 基盤研究（A）（継続）「方言分布変化の詳細解明—変動実態の把握と理論の検証・構築—」（代表：大西拓一郎）

5.3. その他の研究資金獲得状況

1. 1997年度 甲南学園平生太郎基金科学研究助成「『兵庫県方言辞典』作成のための基礎的研究」研究代表者
2. 1998年度 甲南学園平生太郎基金科学研究助成（継続）「『兵庫県方言辞典』作成のための基礎的研究」研究

代表者

3. 1998年度 甲南学園平生太郎基金科学研究助成「マルチメディアを活用した教育法に関する調査研究と開発」研究分担者
4. 1998年度 甲南大学総合研究所共同研究「数理解析的手法による漢字からひらがなへの字形の変化の研究」研究分担者
5. 2002年度 甲南大学総合研究所共同研究「若者ことばの発生・伝播・浸透に関する社会言語学的調査研究」研究幹事
6. 2008年度 甲南大学総合研究所共同研究「故伊藤正雄教授文書の整理と研究」研究分担者
7. 2011年度 甲南大学総合研究所共同研究「小・中学生向け「地域語教材」開発のための基礎的研究」研究幹事
8. 2012年度 甲南大学総合研究所共同研究（継続）「小・中学生向け「地域語教材」開発のための基礎的研究」研究幹事
9. 2015年度 甲南学園平生記念人文・社会科学研究奨励助成金「広域グロットグラムによる関西・中国方言の動態・動向に関する社会言語学的研究」研究代表者

6.1. 社会貢献（学会活動）

- 2005年5月～2011年5月 日本方言研究会 世話人
 2014年5月～2020年5月 日本方言研究会 世話人・研究発表会委員会副委員長

6.2. 社会貢献（主な講演等。他に各市町公民館・高齢者クラブ等講演会講師がある）

1. 2000年11月26日 NHK ふるさと日本のことば 兵庫県 ゲスト解説出演
2. 2001年7月6日 兵庫県高校教育研究会国語部会東播支部総会 講師
3. 2003年4月～2006年3月 兵庫県加西市史編纂委員（民俗部会・方言担当）
4. 2003年4月～2006年3月 兵庫県上郡町史編纂委員（方言担当）
5. 2004年10月～2006年3月 神戸新聞夕刊「ことばのとびら」火曜日連載（73回）
6. 2006年7月14日 NHK第1287回放送用語委員会委員
7. 2007年6月14日 兵庫県高校教育研究会国語部会西播磨支部総会 講師
8. 2008年3月4日 神戸市立高等学校国語部会教科研修会 講師
9. 2008年4月22日～2009年2月24日 姫路文学館「日本文化講座」講師（全10回担当）
10. 2008年7月4日 兵庫県高等学校教育研究会国語部会丹有支部 平成20年度夏期研修会 講師
11. 2016年4月28日～2016年9月15日 西宮市生涯学習大学「宮水学園」マスター講座 講師（全10回担当）
12. 2016年11月20日 第36回近畿高等学校総合文化祭兵庫大会 新聞部門講演会 講師
13. 2017年6月12日 三重県高等学校国語教育研究会 講師